

特別活動教育にかかわる現状と課題

部長 七 宮 晃

1 特別活動の動向

【上越地区】

上越地区は「一人一人を認め、学びあい高め合う集団づくり」及び新学習指導要領全面実施に向けた教育課程講習会などを通して、各自が実践レポートを持ち寄り情報交換を行った。上越教育大学准教授 橋本定男氏から講演をいただき、研修を深めた。また、「学級集団づくり」というテーマで柏崎市立教育センターにおいて上越教育大学特認准教授 伊佐 貢一氏から講演をいただいた。

【中越地区】

中越地区は「よりよい人間関係を築く活動の工夫」というテーマで各学校の活動を紹介し合い、情報交換を行っている。さらに、「学級づくり講座」を開催し、**栃窪小学校教頭 桑原一之氏、浦佐小学校教頭 佐藤久美子氏**の講師のもと、学習指導センター研修講座において研修を深めた。

【下越地区】

村上市では、「人間関係づくりを大切にした学級活動のあり方」をテーマに、**保内小学校教諭 佐藤家博氏**の実践発表や**塩野町小学校長 吉澤克彦氏**を講師として構成的グループエンカウンター体験を実施する。また、**さんぼく北小学校教諭 佐藤進氏**による新学習指導要領伝達講習会の開催など実践発表をもとに研修を深めた。

【新潟市】

新潟市立関屋小学校では、2年目となる県小研指定研究「特別活動」の中間発表会を開催し、全学年による授業公開、文部科学省教育課程教科調査官 杉田洋氏による新学習指導要領における改善点と方策について講演をいただいた。

また、市小研特活部は、**新潟小学校 齋藤 航**研究部長を中心に**小須戸小学校 大石真裕教諭、葛塚小学校 堀麻美教諭**による公開授業研究を通して人間関係力の育成を重点に進めている。

2 特別活動の課題

新学習指導要領の全面実施に向け、特別活動は各学校によって事情が違い、それぞれの学校の創意工夫に委ねられる部分が多い。そのため、特別活動部として共通理解理解が難しいのが現状である。また、教科と違い、部員数が少なく、その構成も管理職や級外が多くなり、授業研究を推進しようとしても難しくなっている。従って、研修を通して学校に広がらないことが課題である。

そこで、先進的な取組をしている学校の情報を広げ、生かす工夫が必要である。